

「消えた年金問題」解決のための提案など、暮らしの要求にこたえる日本共産党

「近所のみなさん、日本共産党です。」

安倍内閣と与党、自民・公明両党は、自衛隊のイラク派兵を二年間も延長する、イラク特別措置法の改悪を強行し、教育の国家統制を強める、学校教育法など教育三法の改悪を、強行しました。憲法九条改悪に向けた手続き法の強行をふくめ、強行につぐ強行です。安倍内閣の暴走ぶりが、きわだっているのではないのでしょうか。

その上、公務員の「天下りあっせん法案」や、「社会保険庁解体法案」など、残された悪法を強行するために、国会会期を延長したのですから、許せません。

日本共産党は、悪法の廃案をめざして、全力を尽くします。

みなさん。

参議院選挙が、七月十二日公示、二十九日投票で、行われます。

「貧困と格差」の打開の道を示して、くらしを守る日本共産党、憲法改悪を許さない日本共産党を、よろしく願います。埼玉選挙区では、あやべ澄子さんが、子育ての願いと、人間らしく働きたい、青年の願いにこたえて頑張っています。あやべ澄子さんを、どうぞよろしく願います。

「近所のみなさん。」

五千万件もの「年金記録」が宙に浮いた、いわゆる「消えた年金問題」に、国民の怒りと不安が沸騰(ふつとう)しています。コンピュータに入力する前の、手書きの記録が、千四百万件以上あることも明らかに、その分も含めると、六千四百万件以上もの「年金記録」が宙に浮いていることになりました。額に汗して働く方々が、営々と納め続けた年金保険料の記録が、こんなに勝手に扱われていたことに対して、怒りが沸騰するのは、当然です。政府の、管理運営能力の根本が、問われているのではないのでしょうか。このままでは、国家的な詐欺行為です。基礎年金番号に統合することを決めた当時の、民主党・菅(かん)厚生大臣はもとより、そのあとを継いだ自民党・小泉厚生大臣、公明党・坂口厚生労働大臣など、歴代の大臣の責任は、本当に大きいのではないのでしょうか。

政府は、不利益をこうむる方がひとりも出ないように、政府の責任で、全面解決するべきです。みなさん。

「消えた年金問題」は、「ひとり残らず」、「急いで」解決することが、大事です。

そのために、日本共産党は、五つの提案をしています。

第一に、年金保険料の納付記録を、現に年金を受けとっている方はもとより、すべての年金保険加入者にも、ただちに送ることです。

社会保険庁の「ねんきん安心ダイヤル」などに、問い合わせが殺到しています。四日から十八日の間だけでも、約二百八十二万四千件の問い合わせがあり、そのうち対応できたのは、二十九万件、十パーセント程度です。「気になる方は問い合わせを」というビラを配っておきながら、電話がつかないのでは、国民のいらだちがつのります。社会保険庁のコンピュータで、すでに管理されている記録を、全員に送るのは、政府がその気になりさえすればできることです。

日本共産党の提案の第二は、「宙に浮いた」年金記録と基礎年金番号の突き合わせ方です。政府は、氏名・生年月日・性別の三条件が一致した場合に、基礎年金番号とつきあわせるという立場でしたが、これでは、結婚して姓が変わった場合や、コンピュータの入力ミスで生年月日を間違えた場合などはずされてしまいます。三条件がそろわなくても、少しでも手がかりがあれば本人に問い合わせるべきです。

提案の第三は、「領収書」などの物証がなくても、同僚だった方の証言や、本人の申し立てに根拠がある場合、それを尊重して、年金を支給することです。

第四は、コンピュータの、間違った記録を、すべての手書きの記録と突き合わせて、修正することです。

第五は、社会保険庁の解体は、国の責任のがれですから、やめること。年金保険料の流用をやめ、天下一掃を禁止するなど、抜本的な改革こそ進めるべきではないのでしょうか。

「五千万件の突き合わせ」を最優先する、政府の立場も、「手書き納付記録とコンピュータデータを突き合わせ」ることを優先する、民主党の立場も、「急いで」「知りたい」という、国民の切迫感にこたえていないのではないのでしょうか。

ごいっしょに、「年金問題」に取り組んでいこうではありませんか。ありがとうございました。